

廿日市市空家等対策協議会（第 12 回）【議事要旨】（公開用）		
日 時	令和 7 年 6 月 30 日（月） 14：00～15：30	
場 所	市役所本庁 3 階 政策審議室	
委員	田村秀穂（廿日市市町内会連合会）	竹中三千穂（佐伯地域コミュニティ推進団体連絡協議会）
	森田啓介（コミュニティよしわ）【欠席】	三村浩（大野区長連合会）
	正木文雄（宮島総代会）	三浦浩之（広島修道大学国際コミュニティ学部地域行政学科教授）
	中尾雅寛（広島司法書士会）【欠席】	高野剛（広島法務局）【欠席】
	谷峰隆宏（広島県宅地建物取引業協会）	高山伸介（日本賃貸住宅管理協会）
	川畠満（広島県建築士事務所協会）	多尾田文香（日本住宅リフォーム産業協会）【欠席】
	梅本登志子（廿日市市社会福祉協議会）	末次功（廿日市金融懇談会）
	原田忠明（廿日市市副市長）	* 敬称略
傍聴等	なし	
事務局	都市建築担当部長 長崎、住宅政策課 下村、児玉、森野、酒屋	
議事 要旨	1 開会	
	2 議事	
	【議題 1】現行計画の取組成果の検証	
	・ 資料 1 の 7 ページ、「種類別空き家数の推移」について、平成 20 年から平成 25 年にかけて二次的住宅が顕著に減少している原因は何か。	
	→ 原因は分からないが、二次的住宅の総数自体が少ないことと、住宅・土地統計調査による結果は推計値であることを考慮すると、多少数値のブレが出たという印象である。	
	・ 空き家数の推移等について、数値は A 社のデータを参考にし、住宅・土地統計調査データは、傾向を把握するために活用したという解釈で良いか。	
	→ はい。	
	【議題 2】次期計画の構成検討	
	・ 施策体系として、現行計画では予防と適正管理が一本化されていたものを、次期計画では分けた形とするのか。	
	→ はい。予防と適正管理は、アプローチの対象や施策の方向性が違ったりするため、切り分ける予定としている。	
	・ 単身高齢者の住まいが空き家化していく問題について、市として解決するためのスキーム等を検討していないのか。	
	→ 現行の体制としては、そういったケースに個別に対応している状況だが、居住支援協議会との連携により、スキーム等の確立を検討していく。	

・ 施策の方針案について、現行の都市マスタープランだけを頼りに導くのは少し早いのではないかと。今後、総合計画、都市マスタープランや中山間の振興計画等について、もう少し関連性を押えていく必要があるのではないかと。

→ はい。空家等対策計画と同じタイミングで更新が図られる計画も各種あるため、適宜必要な情報を把握して、この方針案に反映させていきたい。

・ 資料4「実施プログラムの構想案」の適正管理の評価方法の、通報数上昇率が抑えられたかという指標について、通報数のカウントの仕方はどうか。同じ空き家に対して、通報が相次ぐケースもあると思うが。

→ 通報数のカウントは空き家の件数ベースであるため、1つの空き家に対して複数通報があった場合も1としてカウントする。

・ 資料4で成果指標を示されているが、どの取組の効果があったかということは、どう判断するのか。施策の柱の指標だけでは、個別の取組を評価できないのではないかと。

→ その懸念はあると感じている。どういった評価方法があるか等をご提案いただきたい。

・ 例えば、空き家につながる様々な要因やルートを整理して、各要因等に対応する方策を見込む必要がある。最初にそういったところを分析しないと打ち手が見えてこない。

・ 佐伯地域には空き家が多いが、果たして空き家所有者を把握されているのか。

→ 空き家特措法に基づき、行政は空き家所有者を把握することができるため、必要に応じて所有者を把握している。

・ 積極的に所有者の特定調査するのも効果的だと思う。

・ 急傾斜地や土砂災害特別警戒区域に含まれない利用できそうな空き家について、行政が活用されるつもりはないか。

→ 空き家活用という議論は行われていくものと思うが、現在策定中の中山間地域振興ビジョンの方とかでも地域の意見を挙げてもらった方が良い。当然この場でも議論をしていくことになる。

・ 次期計画の施策体系案に「福祉部局との情報共有による入院または施設入所者への対応」を記載していただきありがとうございます。高齢、障害や生活保護世帯等と関わることが多いが、入院者等に限らず、空き家について指導されてもどうしていいかわからないという者が一定数存在する。今後、もう少し踏み込んだ取組を考

えられたら良いと思った。

【議題 3】 今後のスケジュール

- ・ 議会の議案で挙げるのか。
- 資料の誤りである。議員全員協議会か建設常任委員会での説明とさせていただく。

- ・ 新年度の予算時期に 10 月頃から入るため、その頃までにおおよそ事業自体を決めておきたいということで事務局も考えていると思う。今後しっかり施策を考え、事業説明できるように進めて参る。

3 閉会